



實語教童子教證註

全

所有者	冊同 數書	類別	通番
竹乃舍(三崎)	一冊ノ内		一〇九六

保藏四の四

墨本



實語教ハ紀州高野山の開基弘法大師の述作多
初ハ人間四大五蘊の事ヲ示シ中ハ道ハる事ヲ成
終ハハ専ラ勤メ學テ天命を志スル事ヲ成ス

證 實語教童子教

童子教ハ天台の碩學慈覺大師の御弟子安然和尚
西の京ある翻屋の子ハ書クハハる事ヲ成ス
道ヲ立テ其勸善懲惡の事ヲ著ル
東都玉巖堂藏

實語教注序

實語教者空海大師所作也師嘗著乎秘
府論三教指歸而彼書與斯書稽查之則
文義甚劣恐是有偽書歟云說雖然講述
之則為其語也引書幾一萬卷蒐輯乎經
傳之格言且攢撫乎佛典之要說豈可為
淺近之語外何以有乘茲於美也寔是
大師擁作之密典也蓋其至意之教學也
流為進道之一堆子者也時文化丙子春
正月中院 振發亭主人撰



凡例

○此書江湖小流行きと數本轉寫相屬也。其疵謬何ごは怪小
 足らんや。然ども世本小誤きると甚きものあり。於是予本文の出所を
 考索して文法の顛倒文字の差錯章句の訓點悉ごは校正せぬ
 蓋字學者流文義を釋するの誤改むんば何ごべうごも
 ○二教もと學侶の述作なり。故小大抵諸經論釋義等小據且經傳
 子史の要辭を取まり。其儒書あるところハ漢語を以て。其佛語ある
 ところハ吳音を以て訓讀交ごは混む。幼童會易んが爲小
 平假字を以て諺解し。援引の書まご證すべき語のては舉繁ハ
 恐て省畧し。間亦己ご意を附してごは補ふ
 ○此篇卷は開ハ淺近熟讀するごハ深長其教儒佛小涉る。予ハ
 其兩端を叩て竭も。唯初學の子弟を以て博く學を勤志めんが
 爲小儒佛の道理を晰も。ご註解の旨趣耳

訓點讀方

此章ハ五言を以て
 句局す梵書如陀の
 一體ありごをよむ
 その五字づご句頭
 破きご讀下但世本
 行ご板本校合體略
 行ご章句の轉倒
 文字の差錯ご
 多し今これを改む
 正しご童子等
 専ら本書の白文を
 以て誦讀し周記
 て誤ごを免れ頭
 書の反点は直讀
 假名は以て
 訓點を附し遺忘
 の時の便り備ご

實語教證註

江都 振鷺亭貞居 著

此書名づりて實語教とつた大般若經卷第四百五十七の實語品より
 出り又法華經從地涌出品小我今實語を説汝等一心小信ぜよと
 あり金剛經も如來此實語者真語者と見たり涅槃經卷第二
 十七小正語實語時語ごの熟語ごの佛説より實語
 とつ義を教傲るを誨るを空海大師天下後世の童蒙を以
 教るごを斯書を作さるとあり

○予標題の下小講釋の二字を加し句瑞小講釋ハ和解を以てあり
 尹子曰學必講而後明とつり本文を註解する事ごのこ

山高故不貴。以有樹為貴。
 人肥故不貴。以有智為貴。

幼き時不勤
老て後不恨
悔と雖
尚益をる所
有と無

四大とハ佛説ふり地水火風大火大風大なり人の五躰六分ハこの地水火風の四ツ成りて成就するなりこの四大あつて心と身と成りて人なり
ときハ妄身つづきのところふつあるべきなり
心神とハたゞし一のこと成りしる乃四大をうりて人間の成りしるなり
具足一あるそのゆへ小年きりん小年きりんときハ四大和合して心神さくんたつる由無病そくさいたつてを年一のよるふたつて
がひてこの四大目と小あつて一夜と小暗くなり由とぞとる
よつて根氣さくんたつるとき小学问を法と知とやとの意成りたり
幼時不勤学。老後唯恨悔。
幼時とい人むよまきて十歳り
あるとき成幼といふる禮記の
曲禮小見たり大学の序小人むれりて八歳ふたつて礼樂射御書數の法成りたり
とかく幼時小学问せざれば無学文盲の者となりて人まそを
づりてをりて年あひてその身成りて学びてありしる

故書我讀で
倦と勿と
學文不怠る
時勿怠
眠を除て通
夜誦せよ
飢を忍で終
日習一
師不會と雖
徒不市人
向ガ如一人

故書我讀で
倦と勿と
學文不怠る
時勿怠
眠を除て通
夜誦せよ
飢を忍で終
日習一
師不會と雖
徒不市人
向ガ如一人
故讀書勿倦。學文勿怠。時勿怠。眠を除て通。夜誦。飢を忍で終。日習一。
故といはまて我むまびのち成りてることバなり倦とハ俗のことふたい
くつて成りしる學文の修行ハ片時を懈怠怠ることなり
夜ハ誦つるべきそのなまじとそれをむ祈つるも書成りむべし
なり通夜とハ日のくるまじとよりなり
食物のひまも成りむおひつるなり終日とハ一日とより
中ふいなるまて成りしるなり四句ハ學文成法とむるなり怠る
いしをてしなり○小学曰朝ハ益一暮ハ習ハ心成りしる
翼こと此を一しりて懈らむ是を學則と謂ふ
唯會師不學。徒如市人。

習讀と雖復
不バ
只隣の財
計が如

君子ハ智者
小人ハ福人
我愛ハ

揚子方言小師と八人の模範ありと云り弟子たるも師匠
ふゆどもをなすひあがゆることあるく学ばどもその義理
きりゆる事をもあくして徒らまごまハ市中にまごぬ人ふ
むうひりゆることある人のせんをたのき事あり

強習讀不復只如計隣財

論語小學にあそびぎるときは罔とありそのごとくありひよむ
かろうあてハ道ふくしひよむとありみくきりしてはゆるその
と我あそびぐ一復とありくくしてよむことあり論語ハ南容三
白圭我復もといふことありその義理我あそびぐをわその
身あそびの益をなくむる一く只隣の財我あそびぐと
なり○天台大師云日夜ハ他の宝我数して自半錢の分
まご華嚴經あそび小止観等あそびの語ありとありの宝我
かぞゆるとハ益をなまきことの譬言あり

君子愛智者小人愛福人

君子とハ徳ある人位あり我のひなり小人とハ道我あそびぎる思
ある人のことあり君子とる人ハくろみ私欲なく道徳我たつ
とゆくハ智ある人をちあゆい一小人ハまご私欲するきゆ
福人を見てハあのがるをまごなるんくと金銀我あそびとるこ
しこよるあり○論語曰君子ハ徳我懐ひ小人ハ土我懐ふ君子ハ
刑我懐ひ小人ハ惠我懐ふ

雖入富貴之家小

財無人の爲
猶霜の下
花の如

雖入富貴家為無財人者

とつとあり富貴の家入とつとども財なき人ハ霜ふい
ゆる花の志あめるごとくなりかく解抄して見えバこの句
為の一字たごやろるご思按ふ前句ハ小人ハ福人我あそ
むといつて富貴のいふおのとははるるまご財なくとも義を
まわる人の目うらも富貴の家ハ霜の下の花よりもたの我
えろなく見ゆるあり孔子の不義ありて富且貴ハ我あそ

浮る雲のごとく一と一と等々の義なるべし。○白居易が詩に
富貴来ること久きむを修して瓦溝の霜の如しと有り

雖出貧賤門。為有智人者

宛如泥中蓮。皇侃が論語の疏に財と不
き貧とつひ位なき貧と

貧賤の門を
出ると雖
智有人の為
み者宛泥中の蓮
の如し

蓮の花の中の君子なる
ゆへ周茂叔なごもる紙愛せり。○釋惠空が抄書に此兩段ハ
ふく意味ありと云云四十二章經云吾沙門と為て濁世ハ處
も當ふ蓮花の泥の為ハ汗さるるが如くなるを

父母如天地。師君如日月

父母ハ天地
の如く
師君ハ日月
の如し

天ハ陽氣多て万物成てしあるひて一さいその下ハありてよく
生長もるゆへハ父の徳成るをよりかるがゆへハ父ハ天乃

親族ハ譬ハ
葦の如し
夫妻ハ猶ハ
尾の如し

親族譬之如葦。夫妻猶如尾

親ハ族ハ一とよむ族ハ一とよむ一門一族のことなりす
みハ父母師君のちつきふくくまば葦の皮のうまきこと
くみあをまきととなり夫妻ハを紙尾のごとくといふ尾ハ一
たとくまきとわかく卑下してなり。○書言故事ハ親戚の類を
葦の親といふと漢の中山靖王のことバよりいひてさるよ
葦ハ蓋なり葦ハそのちるき皮のいつてうまきそのちるきと有り

八正の道廣
と雖
十惡の人ハ
往不

無為の都ハ
樂阿りと雖
放逸の輩ハ
遊不

人間八苦の生死の海をこころんとあり此段ハおろろの阿のこころ
よりてくる一紙まねくも樂をもとむる事張りのあり

八正道維廣十惡人不往

八正とハ大品經に云ふあり八正見正思惟正語正業正命正精進正
念正定正慧張八正道分とありありくくくくハ四教儀集解ハ
注ありまの段の七覺とこの八正を修行するがまをら佛乃
道あり十惡とハ四十二章經に身三口四意三とあり身小三
とハ殺生と偷盜と邪淫と張り口の四つとハ兩舌と惡罵と妄
言と綺語と張り心三つとハ嫉と嗔恚と愚痴とありこの
十惡張はくくるそのハ八正のこころひらぐとてまのまぐあ阿
まじくも向くことハあつぬとあり

無為の都ハ樂阿りと雖放逸の輩ハ遊不

無為とハ梵語ハ涅槃といふあり華嚴經の疏ハ為ハ作あり
作ハまをら生滅ありとあり志るまバ無為とハあることあり
とハ義あり為とハまよひの生死張りその生死有為乃せく
張るあまて福もんのむるの都ハつるがさとりありこのままハ
たのこころまありなりといふも放逸とてころろ乃まあおぬる
まあて惡事張はくくるそのハ阿そまざとあり

敬老如父母老幼如子弟

年あひさる人をこてハ他人ありとそこがあやをうやまのこころ
せよとあり孝經ハ親を愛するひとハ敢て人を惡む親を敬
まするひとハ敢て人慢とらむとありまの十歳せんこのいけけるま
その張ハ親類あてはあくともわが子や弟張りまのこころこころ
つづくめとあり論語ハ孔子このと張子路おのこまへり○孟子
曰吾老を老とて以人の老及及び吾幼張幼とて以人の幼ハ
及不さバ天下張ハ掌ハ運ハつとあるハ本文のころろよくかな
ありまのこころの二句の女ハ天下國家張を治むる

我敬於他人他人亦敬我

老たるを敬
ふハ父母の
如ク
幼き我愛を
るハ子弟
の如ク
我他人於敬
他人亦我を
敬ふ

あるときこの書紙作りと童子等ふまのりあはれりこの由
小童子教とぞ名づけしとあり

夫貴人前居。顯露不得立。

夫とハるつゝんのことバなり貴人とハ位ある人むろ紙つふり何
らぞ我らとよびき人をさきといふあり顯露とハあつゝあるこ
ろあり父兄主君師匠あつゝの前小居するときハ何りふこ
ろまよふこと紙せむとありあつゝとやうふよく禮義紙は
めとありこの禮法紙守る人々の所以をまば先あつゝ
ありくき何りハせむとあり

遇道路跪過。有事敬承。
向手胸。慎不顧左右。
不問者不答。其作之謹聞。

夫貴人の前
小居てハ
顯露小立
を
得
不
ま
ま

道路小遇て
ハ跪て過よ
召事有ハ敬
て承ま
兩の手を胸

小當
慎て左右紙
顧不
問不者答不
仰有者謹で
聞

三寶ハ三
禮紙盡し
神明ハ再
拜を致せ
人間ハ一

まよふ貴人なる人小道をぐるむてゆき何ひあわらさバひびき
つぎ禮紙なりてまきよとありはまよふ貴人の召よびふりこと
何りハいふも敬してその事紙うらまひき西の手紙胸小當て
向とあるハ左右の手紙くこりせとそ貴人のくこむ心紙
はまよふを左右紙うらまひきまよふはまよふまよふとま
人小まよふとありまよふとまよふとまよふとまよふとまよふとま
問たのり紙まよふとまよふとまよふとまよふとまよふとまよふとま
とあり○禮記曲禮篇曰先生小道小遭ハ趨て正立て手を拱く
又云凡奉者ハ心小當又云問まよふ敢て對まよふ又云問まよふ終て
對とありまよふの語小よりて禮義作法をわらふ

三寶盡三礼。神明致再拜。
人間成一禮。師君可頂戴。

三宝ハ佛法僧の三ツ紙つふりあまゆく宝といふぞとまよふハ
佛ハ人中の宝あり一大藏經をどハ佛法の宝あり僧乃戎行

禍福者門無
唯人の招所
小在

天の作る災
ハ避ぬ可
自作る災ハ
逃難

尚磨一斯言の玷るハ為べとありこの白圭の詩
南容一日小三びづくりてよと感
孔子そのこの子孫をふまはさる事論語

禍福者門無唯人在所招

禍も福も門戸の外よりきこるハ唯人のこころより
善も悪もまねくあり左傳小閔子馬の語也

天作災可避自作災難逃

天の作る災ハ水火のふいふあるとまの早疾とて
ひでりのまざり流行病を人の災とんむるこひは
この天災ハつてんその災そとるもまのこころ
ありその身より罪はるてうけるもわざひい
のうまごころとあり書経太甲云天の作せる孽ハ猶違
自作せる孽ハ違づとて語とあり

夫積善之家

必餘慶有矣

又好惡之處

必餘殃有矣

人而陰德

有而陽報有矣

人而陰行

夫積善之家必有餘慶矣

又好惡之處必且餘殃矣

積善ハ善法はむ家ありよきと成るハ金銀財寶
つむうとてあつてあるとて天の祐は獲るゆ餘のま

とひありてあつて子孫ふさめゆるありまの悪は
おはうとて天のまの法とてありありひさるる

慶あり不善を積の家ハ必餘の殃ありとみたり

人而有陰德必有陽報矣

人而有陰行必有照名矣

陰徳ハ人おほくは内におくして善道はあひひるは
ありこのくまの徳ハ人ハあつて天道ハあつて

必照名有矣

信力堅固の
門ハ災禍の雲起

念力強盛の
家ハ福祐の月光

成増

心の同不ハ
面の如ク
譬バ水の器
小隨ガ如ク

めま由陽報とてかあるんそのさいまひの報成るごとく
まあり司馬温公が家訓も陰徳成實のちあふはくとして
まつて子孫長久のをりごとくあるんハ志とていふ次
句の人として陰行はまハ必照名ありといハ語ハ淮南子の人
間訓もこまありといハ陰行とて身はくして道成あま
るハ徳行はまハ名聞らるる人あはく福をもくあるん照
名としてあきくある名があつていふまて天下ふくまは
名ハ實の實と莊子もいふ

信力堅固門災禍雲起
念力強盛家福祐月増光

信力堅固の四字ハ法華經方便品あり信心成はく欠か
めく人のいふハまざりハの起るといふまて災禍を
まざりハとよむあり海篇犀炤ハ災ハ急哉天火あり禍を
こ急貨災害ありといハ念力強盛とハ佛神成念むる力の

はよくさうんある成いハあり福祐とハ福ハさいりハあり祐ハ
まてくるあり易ハ大有の上九天よりこま成祐く利せざる
ことありといハ本文ハ福祐成月ハ多し之災禍成雲ハ多し
いハ福祐成ありいハままのハ災禍ある由あり日本記
神代卷等ハ神のさいまひせざる成まざりハといハあり信心
の人ハ天の佑より災禍の雲まていハ福祐の月光成増

心不同不ハ
面如ク
譬バ水の器
小隨ガ如ク
人の心といハそのハ千万人ありてもあまハ心のそのハあま
ありいハ人ハ人の面といハありてもあまハ心のそのハあま
水ありていハ器といハありてもあまハ水のそのハあま
ゆハ方あるそのあまハ角ありてもあまハそのあまハ
まらくるあまハ人のそのあまハ善悪のそのあまハ
はりやまこと水のそのあまハ水とていハあり
左傳ハ子産曰人心同謂乎後漢書ハ尸子云君ハ杆の如ク
成吾面の如くるまて謂乎後漢書ハ尸子云君ハ杆の如ク

り

神明ハ愚人

殺罰を

殺ハ非を

懲令が為る

り

師匠の弟子
打ハ

惡ハ非を
能令が為る

り

生而貴者無
習修智徳成

管ハ法のことありてこのはるより天に天ハちのききまの
ありハ針地地ふきしてて地ハあきいそのとありハ天地乃大
ひあること成るべきをさしてちるのせべきことあること
そのごとく愚者の思慮まるところハちかくあきくしてとなく
ふらきあきんハくりハあききあり○莊子曰管成用て天に闕ハ
錐成用て地に指を亦小くしむや

神の罰愚人非殺為令懲

あふ神明といハ本朝鎮護の神成りあり日本記神代卷
曰諸の不順鬼神成誅とて神明ハ邪惡成を其そのふハ
罰成あえらるるまらきとてそのあらなる人成ふくむあま
あふそのは成ふくしていまのうめなり易ハ勸善懲
惡あり孔子を郷人の善まのハ成よとてそのようさる
ものハ成成ふくむといり

師匠打弟子非惡為令能

弟子といハ字のころハ師匠といハ弟あり子ありといハ
義ありまといハとあると師匠よりのちる由ハ弟といハ
そのころのさとり師匠より生る由ハ子といハ師匠成
親のどくろやまハ弟といハより師匠ハ親のありハ
成る由ハ弟や子といハそのありハ成てハいさで由るま
つき悪くやくなく打擲するハふくむハいさありといハ
よきものふあさんとありハあり孔子原壤足成るけつて
て無礼成るハ杖をもちてうたれといハ原壤を
ふくしてうたれ道ハそむく成折檻ハ佛を
いさまのハちやくせよと涅槃招拾ふときまあり

生而無貴者習修成智徳

聖人ありて習修成智徳成貴ぶ言人とあるあり
がくもハ修して智徳成貴ぶ言人とあるあり
論語小学でよりて習修成智徳成貴ぶ言人とあるあり
朱熹の註ハ習ハ鳥乃
志をくといハ習といハ重習よりより

不ふ貴者きうしやうハ必かならず富とみ者しやうハ未ま必かならず

まゝ思おも繹ひもとぬるとあり○覺かく賢けんが抄せう書しよハ聖せい人じんハむすまをさるゝ
ふしてあるゆへに習しゆ修しゆするふをあよぶとまらんで道みちハ
ありハ賢けん人じんなりこまへに世せ間かんの儒にう教きやうハ志しを以もつてい
ふあり出し世せ間かんの道みちハ精しやう進しんの修しゆ習しゆ成じやうを以もつてなる般若へんが
の智ち徳とくハこの法ほふとむる上うへのうなるなり○禮らい記きハ云い
天子てんしの元げん子しを士したり天下てんか生なまるがごとくして貴き者しやうなりと
てつりある本文ほんぶんのこゝろたより愚ぐ謂い佛ぶつ書しよ成じやうるあまて
智ち成じやう弟てい一いつとより儒にうハ仁にんの道みち成じやう至して大だいなりと一いつ經きやう書しよ
ハ仁にん成じやうさきとをこの童子どうし教きやうハ毛もうと佛ぶつ典てんハよるゆへに智ち徳とく
成じやう貴き一いつとかりるあり孔子こうし曰い生なまるがごとくして知ちる者しやうハ
上うへあり学がくで知ち者しやうハ次つぎなりとあり智ち徳とく成じやう成じやうハ儒にうハいさゆへ
成人じんじんと一いつ才さい智ち禮らい樂らく備びり成じやう成人じんじんと稱せうまを孟子めんしもつり

貴者きうしやうハ必かならず富とみ者しやうハ未ま必かならず

貴き未ま富とみ者しやうハ必かならず富とみ者しやうハ未ま必かならず

金銀きんぎん成じやうもてあるいゝある人ひとハ富とみ者しやうなりとあり
位ゐつとときハ富とみ者しやうなりとあり源げん信しん大だい師し要やう集じつ曰い富とみ者しやう未まかあるを
壽じゆのちありきそのハ未ま必かならず富とみ者しやうなりと一いつ説せつありこの童子どうし教きやうハ
富とみと貴きとハ二ふたつなりと一いつ理り成じやうとせり○孟子めんしハ陽やう虎こ曰い
富とみ成じやうまは仁にんなりと一いつ成じやう成じやうハ富とみ成じやうなりと一いつ白はく氏し文ぶん集じつハ高かう
者しやうハかあると一いつ賢けんありと一いつ下げ者しやうハかあると一いつ愚ぐありと一いつあり

雖いふ富とみ心しん多た欲よく是こゝろ名な為な多た貧ひん人じん
雖いふ貧ひん心しん欲よく足たり是こゝろ名な為な富とみ人じん

金銀財宝きんぎんざいほうハ富とみ者しやうなりと一いつ足たりこと成じやう知ちらざる人ひとハ欲よく心しんぬりその
うへにこのまゝありと一いつ不足ふそくして法ほふ神しんハ愁しゆありと一いつ貧ひん人じんと
かりることありと一いつあま成じやう守しゆ錢せん奴ぬともまゝ有あ財ざい餓が餽くともいや
しめりありと一いつ貪ま心しん成じやうよと一いつあま成じやう欲よくなりと一いつ成じやう成じやう
足たり成じやう知ちときハなりと一いつむすま憂うれありと一いつありと一いつ成じやう成じやう
福ふく人じんと一いつ顔げん子しの貧ひんありと一いつ泰たい然ぜんと一いつそのの成じやう成じやう

くめざりし孔子を賢哉回とふりくゝるめは佛説を
足とて知ハ弟一のこのこと涅槃經ふとく

師の弟子小

師不訓才子。是名爲破戒

訓不

師呵責才子。是必爲持戒

是名爲破

此段ハ佛説小よりてかたりきりるがう童子教のうへてハ志を
らく世教ふとていふ師匠ある人弟子はよく教訓し

戒と爲

て道理はあしきまハ破戒なり破戒とハ戒は破るるあり
呵責とハ志よりせむる戒はよく弟子はいりて道はあし

師の弟子は

由は戒持戒といふ持戒とハ戒はよく守るる菩薩善戒經より
師といふ弟子はあしきまハ佛法はよくて地獄小墮と云ふ

惡弟子は畜

畜惡弟子者。師弟墮地獄

師弟地獄小

養善弟子者。師弟至佛果

墮

惡弟子とハ毗奈耶論云弟子小五事はあしきまハ

善弟子は養

ひとらハ不信ニツハ懈怠三ツハ惡口四ツハ不孝ハ
戒はよく守る五ツハ惡知識ハあしきまハ

者

やしきまハ師匠を弟子をともハ地獄小あしきまハ

師弟佛果小

るうその由ハ師弟とをハ嗔恚はよく守る又よき弟
子はよく守るハ師弟とをハよく守るハ佛果小あしきまハ

至

地獄とハ一切經の音義ハ梵ハ捺落迦といひくハ苦器
といふこと不可樂といひまハ非行といふ非法行のこころ

教小順不弟

なりといふこと一義ハ云獄とハけごとの名なりハ

可

あしきまハ牢の口ハ獄のこころはよく守るてあしきまハ名義集
小地獄は註して地ハ底あり下なりといふこと

早父母小返

不順教弟子。早可返父母

早父母小返

不和者擬冤。成怨敵加害

觀音ハ師教
 の爲ハ
 寶冠ハ彌陀
 勢至ハ親孝
 の爲ハ
 頂ハ父母の
 骨戴キ
 寶瓶ハ白骨

やるはひありきまは父祖の業成ててくくし志るまは親と師
 匠と主君の恩はいつきまをひとく身命あててはくまらるる
 そのなり樂共子が三事の説といふまゝの事成り國語ふく
 くり又七尺去とハ弟子のあつらふまゝなり師成りやまひ負る
 ちまらるるよきこと成あつらふまゝ師匠といふも辞義まら
 び孔子を仁に當てハ師に讓むとのこまなり

觀音為師教 寶冠戴彌陀
勢至為親孝 頂戴父母骨
寶瓶納白骨

觀音ハ阿彌陀如来のあんでなつかるるがゆへ本師彌陀成
 冠のうちふくむるまらハ師恩成頂礼するの義ありこのと
 龍樹の十二礼ふくむる又大日經あを説あり善道大師の般
 示讚ふハ天冠の化佛とく千里あり慈恩成念報して

成納

朝ハ早起
 て手成洗
 意成攝て經
 書成誦せよ

此は頂戴成とく宝冠とハたつらのかつらなり觀音
 ハ毘楞伽摩尼宝成をちて天冠とまゆふかくりふかあり
 くりハ十六觀經ふとらりその天冠のなりふひとりのこと
 化佛ハいまたりたりき二十五由旬とく勢至ハ父母孝
 行のこめふかハらふ舍利成とくまらあり宝瓶とハこ
 くのほなかり勢至のつゝきの上の肉髻ハ鉢頭摩花と
 つゝこのは不ありと觀經ふとらり○一説ふいりく上の文
 父母の骨成頂戴成といひて又下ハ宝瓶ハ白骨あさむ
 とハつゝとるることばありのちの人の注解のことばなるべしと難
 けり志るまらるるもこの實語童子の二教ハあらぐち文章
 のまらびあく童子等觀音勢至の二菩薩を師恩成と
 くとく親の孝養成ふくむまらひとら成さらせよ

朝早起 洗手 攝經書
夕寢寢 洒足 靜性 案義理

酒サカベ小コ醉サケバハ心ココロ
狂キヤウ亂ランをヲ
食シヨク過カまマバハ學ガク
文ブン小コ倦クワン

身ミ温オン小コまマ
増ゾウバハ睡スイ眠メン小コまマ
身ミ安ヤスんンむム
懈ケ怠タイ小コまマ

起オキ

匡キヤウ衡ヘイハハ夜ヤ學ガク
のノ為タメ小コ
壁ヘキ小コ鑿ゾクてテ月ツキ
のノ光ヒカリ小コ招マツ

酒サカベのノこコてテハハ本ホン性セイ小コくクるルハハまマるル由ユいイうウあるアル人ヒトをヲ狂キヤウ亂ランまマるル由ユ
なりナリ孔子コウジをヲ酒サカベハハまマるルをヲ亂ラン小コおオよヨびビとトいイまマしシめメるル由ユ
酒サカベハハ佛ブツ性セイ小コ失シふフ由ユ小コ秋アキ氏シハハ大ダイ小コいイまマしシむム善ゼン惡アク所ショ起キ經キヤウとト云イハふフ
小コまマるル由ユハハ三サン十ジュウ六ロクのノ酒サカベのノ過カ小コけケりリそのソノ三サン十ジュウ四シ番パンのノ説セツ小コ身ミ心シン
散サン亂ランとトいイふフ由ユハハ資シ持チ記キ小コ十ジュウのノ過カ小コ出デしシ龍リウ樹ジュのノ大ダイ
論ロン小コ三サン十ジュウ五ゴのノ失シ小コけケりリまマとト小コ酒サカベハハ人ヒトのノまマるル由ユハハまマるル由ユ
そのソノ由ユハハ狂キヤウ亂ランとトいイふフ由ユハハ学ガク文ブン小コ法ホフとトむムるル由ユハハまマるル由ユ
いイまマしシむム一イツ次ジ小コ食シヨクまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
懈ケ怠タイ小コまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
小コまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ

温身増睡眠安身起懈怠

睡眠スイメンとハ玉ギョク篇ヘン小コ睡スイハハおオ祈ノリつツなりナリ眠メンハハまマとトよりヨリ祈ノリあるアルことコト
なりナリきキまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
小コまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
小コまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ

福フクくクりリ孔子コウジくクちチまマるル木キのノせセめメ小コのノこコ一イツ那ナ律リツくクりリ秋アキ小コ報ホウ蛤カクのノそソ一イツ小コ報ホウ差サ別ベツ經キヤウハハ睡スイ眠メン小コ十ジュウ二ニ
のノこコがガ小コまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
とトいイふフ由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
かカりリつツまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
りリてテまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
急キウハハ衆シュウ生セイのノまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
急キウとトハハ心シン懶ラン惰テのノ由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
急キウとトハハ心シン悶モン重ジュウのノ由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ

匡衡為夜學鑿壁招月光

史シ記キ列リョク傳デンおオよヨびビ漢カン書ショ列リョク傳デンるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
史シ記キ列リョク傳デンおオよヨびビ漢カン書ショ列リョク傳デンるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
なりナリ先セン祖ソよりヨリ農ノウ行ギヤウ法ホフとトいイふフ由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
一イツくクしシてテとトいイふフ由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
ひヒろロくク小コまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ
をヲまマるル由ユハハまマるル由ユハハまマるル由ユ

いとくまぐくやらの人のことありしハミミ嫂のおまじりし
てがらなりとりり

俊敬ハ學文
の爲ハ

繩ヲ頸ニ懸
て眠不

俊敬といひハいまごころに右ふある孫敬と云はれ
先賢傳ハ孫敬がくまけんはたとむるとき繩は屋のうら
かりよりさげてくびかけ袖うたはせることありし西段ハ
かゝるハ別の人ある後勅まじり

車胤ハ夜學
螢ヲ聚テ燈

と爲
螢ヲ聚テ燈

晋書ハ車胤あざむハ武子といひ南平といふころの人あり
袖ふがくうんはたとめてうむとる家まじりしとあり
はる夏夜の夜ハうまそのくくろのあり螢はあまごころても
のりんはてし夜を日おつぎてくくろりり博學ありてあ
くのことふつせうその名世ふくまふくしゆハはあ吏部
尚書の官ハなまじり

宣士ハ夜學
雪ヲ積テ光

と爲
雪ヲ積テ光

文館詞林文人傳ハ宣士ハあざむハ演侍といひ會稽昔の人
なり代々農行はたとむ家まじりてまじりしハ夜學はつ
とめんとままごころをゆつるし冬より春おつるまでハ雪はつ
めてそのひうりあて書はよめりのちハ侍中の官とある

休穆ハ意不
冠之落ト

知不
冠之落ト

文士傳ハ休穆あざむハ周和といひ河陽縣の人なり
幼少のときよりがくまけんはたとめてあこころとる宣帝ハ
はくして従事の官ハなまじりは袖ふちちちゆくときも書は
よめて手はまてむるとき路のありありあせふさそくく
のかかりあちこち志はせむを書ハふくくこころうつて
そのうりのあちこちをまじり

高鳳ハ意不
文ヲ入テ

夢の流ると
汝知不

劉寔ハ衣汝
織乍
口小書汝誦
して息不

倪寛ハ耕作
一作

腰小文汝帶
下捨不

此等の入者
皆
書夜學文汝
好で
文藻國家小
満
遂碩學の位
小到

後漢書なぐらひ李氏藏書お傳り高鳳あざむ文通と
り南陽葉の人なりその家農行いそがり
ひるも小書あま汝あまておこらとる
ら汝あまおつせりあまふあま雨あまりあまきあまりあま高鳳書あま
よあまりあま雨あま水あまがあまつあまてあま夢あま汝あまこあまらあまくあまるあましあま汝あまもあまああままあまを
のあまんあま汝あまああまるあまりあまはあまおあま家あまおあまりあまてあま妻あまがあま夢あまいあまふあまとあまひあまふ
ちあまめてあまああまひあまいあましあまるあまことあまそれあまおあまああまひあまいあましあま西あまおあま名あま儒あまのあま答あま言あま汝あまああまり
廣興記東昌府の人物類ふ三ふり晋の劉寔あまああまるあま子あま真あまと
り高唐の人あり家あままあまつあまりあましあまぬあまおあま牛あまのあま衣あま汝あまああまりあまてあま世あま汝あまと
り博學あまふあまりあま司空の官あまああまるあまりあま崇讓論あまとあまりあまことあま汝
はあまくあまりあま世上の風俗あま汝あま矯あまるとあま九あま二あまふあまりあまてあま死あままあまとあまり

劉寔作織衣口誦書不息

倪寛ハ耕作腰帶文不捨

漢書列傳李氏藏書循良名臣傳等のせり倪乃
字汝見あまりあまけりあま音あまハあまたあまがあまひあまふあまげあまいあまのあまこあまゑあまるあまりあま韻府あまハあま倪寛あま
作あまるあまこの人あまハあま千乘の人あまありあま孔安国あまハあま法あま之あまてあま學問あま汝あまつあまとあまむあまつ
袖あまああまりあまてあま耕作あま一あまるあまりあま腰あま小あま經あま汝あまああまひあまであま鈕あまとあまり

此等人去皆書夜好學文

文藻汝必家遂到碩學位

この人あまとあま匡衡あまよりあま倪寛あままであまの人あま汝あまひあまたりあま文藻あまとあまハ
文章あまのことあまなりあま藻あまハあま海あまのあま草あまの名あまありあま本朝あまの人あま正月あまありあまりあま
といあまふあまそのあまはあまくあまるあま草あまありあま神宮あま皇宮あまのあま馬あまのあままあまきあまにあま一あま海
ひあま一あま由あまふあまこのあまくあまきあま汝あま神馬あま草あまとあまもあまいあまふあまりあまそのあまくあまきあまとあまるあま級
ああまりあまてあま文章あまのあまりあまきあまはあまくあまるあま袖あまありあまああまよあまくあま似あまるあまゆあまいあま文藻あまといあまふあまと
洪武正韻あまありあまひあま顔師古あまハあま漢書あまのあま註あまふあまけりあま右あまのあま十あま人あまのあま人あま
よあまるあまひあまるあまのあまこあまらあまりあま學問あませあま一あま由あまふあまつあまおあまふあまそのあま功あまがあまありあまハ
まあまこあまてあま文章あまがあま國あまをあま家あまをあま満あまくあまりあま日本あま記あま小あま國家あまとあまハ

成五體身分と

胎内小處と

十月

身心恒小苦

勞

和合あり五體とハ筋脉肉骨皮毛成りしなりいまの童子教ハ
 佛説なり從義の四教儀ハ父母の交會赤白二諦此身と成
 とする小あな天台大師の十疑論ハモこまあり止觀ハ
 頭面四肢五體といふとほまはくんと両の手両の足成りしなり
處胎内十月身小恒苦勞
 胎内小處とハ母の腹小やどまる成りしなり魯齊王栢天地万物
 造化論云天一地二人三三三ありて九小如九九ありて八十一ハ日
 成する月の数八十故ハ人ハ十月ありて生じたりとるハ五月
 七月ありてむまろそあり一偏小さこまてくハ十月といハくハ
 成きてより胎内小やどるとして佛書ハ多きハ多きまの
 説あることと志はくまハてありしハ大般涅槃經云奇哉
 我母大苦惱成受十月成満足一我成胎小懷抱せりとあるハ
 本文のころあなその懷妊してありし十月のあはき
 ぬハ成りて身小成をたやませるそのころハハハハハハハハハハ
 と人の子なるまのハその恩成ありハハハハハハハハハハハハハハハハ

胎外小生て
數年
父母の養育
成蒙

生胎外數年蒙父母養育

胎外とハ胎内より外にむまるとしてのちのことありあなを人む
 ままで六七歳まで父母小やあひそをてらる成りしなり論
 語の陽貨篇小子むままで三年ありて去りてのち父
 母の抱えたり成りぬるとしてハ馬融ハ注ハを子むまるとして
 いまハ三歳ありしハ父母のこめハ懷抱せるとして詩
 經ハを父むま成り母むま成りハハハハハハハハハハハハハハハハ
 成りハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
 成りハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

晝者父の膝
小居て
摩頂成蒙と
多年
夜者母の懷

晝者居父膝蒙摩頂多年夜者母懷

晝のあはハ父のひぎのうハありて摩頂としてハハハハハハハハハハ
 きひらきてハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

小卧て
乳味成費と
數斛

朝ふハ山野

于交て
蹄成殺て妻

子成養
暮ふハ江海

于臨て
鱗成漁て身

命成資
旦暮の命成

この中ふりて乳成のむこといふなりぞや恩重経より
嬢の八斛四斛の白乳成飲と有り偽経たのまごを理ふは
こといふも例有り又五道受生経といふ小児生て三歳九一
百八十斛の乳を飲といひてはま子成やいふは

朝交于山野殺蹄成其妻子
著除于江海渙鱗成資身命

阿ふハ山野野ふて殺生成してはま子成やいふは
ごくむなり洪武正韻ふ蹄ハ足なりといひけごまの阿成
いふなり又くまふたるま江のとり海いづも成はりうろ
くづのくづひ成をどりそのいのち成りてあのかいのち成
ふくくるあり○按ぶる小涅槃経ふ十六種の悪成とくこ
かくのこまのこ成いふは

為資身旦暮命日夜造悪業

為嗜朝夕味多劫墮地獄

旦暮といふはけくまのいとあり悪業とハ釈氏ふ十悪業の弟
一とある殺生罪成はるあり梵網経の十重禁戒ふ殺生戒成
むいふ説り嗜といふまきこのむとあり朝夕の食物ふ味成
このとて莫鳥成ころまゆふその業ふひるそ多劫のあつと
地獄ふあちてくるは成りてとあり劫とハ俱舎論より
時のまくるあき成刹那といひ時のるがき成劫とまといひ

戴恩不知恩如樹鳥枯枝
蒙德不思德如野鹿損草

人の恩ふあつるがくその恩成去るはくも鳥の木ふ
まくるあがくそのけ成りて枝成枯が如といふ華嚴
経ふ恩成知るそのハ多く横死ふ遇と有りまふ人より徳成
きてそ成徳とまあつるハくも野ふまむ鹿乃その

資為ふ
日夜悪業成
造
朝夕の味成
嗜為ふ
多劫地獄ふ
墮
恩成戴て恩
成知不ハ
樹の鳥の枝
成枯が如
徳成蒙て徳
野の鹿の草

如女 汝損をる

酒夢 其父汝

打天雷 其身汝

裂

班婦 其母汝
罵其命汝
靈蛇 其命汝

どうらの草汝そんぶるが如しとなり 智度論 恩汝

酉爰 打其父。天雷 裂其母

岑象求吉凶影響録のせり 酉夢 唐の世の人なり その
むのさつさ不孝ありあるとき夜あいつて家ありる汝父
いうてちやうちやうとるさ 酉夢 ちまち 杖汝 ちつて父乃
くん 汝うつそのとき天ふいふおきくもり 地 へんきまききして
雷その家ふあちくく 酉夢 汝はんでそふのひる 明日
その死骸 汝さきやうて庭のまふおとん人ちちうてこれバ
せある銘ありいもく 酉夢 打父天報 裂身といハ字あり
酉夢 ちく汝うつ天のむくひふ身 汝さくといハ字あり

班婦 罵其母 靈蛇 吸其命

張師正 括異記 班婦 罵其母 靈蛇 吸其命
鍾山の巴蛇 其命汝

吸

郭巨 其母汝

養 其母汝

穴 汝掘て金

の 金汝得

班婦 汝くうふとりの罵と正韻 惡言あり 詈ありといり
ことハことあや汝惡口 へんきまききそのむくハたあり

郭巨 為養母 掘穴 得金

孝子傳 郭巨 後漢の世の人なり 家まづりて
ひとりのおとる母汝や へんきまききその妻ひとりの子 汝うむ三歳
あたるとき 母食物 汝けて孫ふくせり 郭巨 その法まより
くうていふや 家まづりて 母汝や へんきまききそのむくハたあり
うづて 母汝や へんきまききそのむくハたあり
うづて 母汝や へんきまききそのむくハたあり
あること 二尺 汝ありあて ひとりのおとるの金 汝得りて
くろが 孫の銘 あり 天賜 孝子 郭巨 官不得 奪人 不得 取と志
るせり けいこうの天あり 孝子の 郭巨 ありて 蒙求 三綱 行實
とりの阿が ありて 人をもとるまきとあり

汝 按むる 小黄金 一金 汝ありて 論語 子子曰 ことハ金 汝與とあり

姜詩自婦斌
去て
水斌汲
庭小泉斌
得たり

姜詩去自婦。汲水得庭泉。

後漢書姜詩の廣漢といふところの人なり母あつて孝行あり妻をも又姑あはれりあることありて詩は姜詩とありしきりて書貴なる家をもよめりて姜詩がとありしきりて書夜小紵を織らしてその織を以て母を養ふ事ありて老母ふ志きい織らふありのまゝお法ぐら姑大よめのまゝろぎ織らんとてよびくろりそまよりしてよめ志くとのありいよむつまかりしその乃ちその子お水斌くせらるるふつきとてはあふ死しりてそのいふ乃あそり

孟宗竹中
哭て
深雪の中
筍斌拔

孟宗哭竹中。深雪中拔筍。

晋張方楚國先賢傳おこり孟宗が母箏斌はまのめり母の死してのちお日ごろまをこるそのよてまつんとおまども時いま冬の節雪ふり中お箏生むぎやを多く孟宗竹のまやあいつてあふおるまをあげきりま竹の子こまをぬかおあひいでるこを斌まつて母の亡後おまほりらるとありこまを至孝の感むるところあり後孫皎お法うて司空と云官おあまろ○又異説あり孝子傳お孟仁字恭武とあり江夏の人なり母お法うていつて孝行なりまをこるまを斌くんと斌このむ孟仁はひあふいつてそるまを冬月のいま生せは孟仁竹おまうてまをこるまを精霊こま斌らんとてこまをぬかおあけのこ

王祥歎て氷
成叩バ
堅凍の上
魚踊

あひいつとなりかくのごとく二説ありつづきも用由一吳録
ハ孟仁まとの名ハ孟宗ととり

王祥歎叩氷堅凍上踊魚

晋書の列傳ハ王祥あざるハ休徴ととり琅邪臨沂の人なり
繼母朱氏つて子成りまじく王祥いよく孝行ふるまふなり
父母を―やまひあまは衣のおび成もとるせして湯藥成りて
とてまらるそのあやなまあるうをてこのころ成極寒のあづんや
水こころりるるる王祥きるその成ぬぎてまらる成さきてうを
成をともまらるるふちまらるるころりあつらうととりて二献の鯉もど
つてころりるる成をてころりあやあそまらるる又黄雀とて口のころり
きりらるるまらぬのあづん成りあそまらるる成り六七十羽ととん
で懐のあふ入るる成をてころりあそまらるるころりあそまらるる
あつらうころりるる孝行のくまらるるころりあつらうととり○傳灯日記
古事といふ書の中ハ孝子の詩あつらう繼母人間有王祥天下
無至今河水上一片卧氷横この詩のころりあそまらるる王祥が氷成

舜子盲父成
養
涕泣まきバ
兩眼成開

あつらうめてとんととて氷のころりあつらうのころりあつらうととり
あつらうあつらうととてその川の氷ハ王祥が叩るるころりあつらうととり

舜子養盲父成涕泣開両眼

孟子離婁の圖解ハ舜の父ハ目ハ好悪成りころりあつらうの
人瞽叟と名はくととり又小説家ハ舜の父實ハ瞽舜こころ
成舐霍然とてひくくとも二説あり本文ハのち乃義成
とてころりせり孝子傳なるるハ史記成按むるハ舜の姓ハ
姚あざる成ハ重華ととり重華母ハころりまて父の瞽叟のちの
はま成めとり象といふ子成りまはく母ハころりあつらう象あつらう舜
ハ孝行のまごを後の母悪心成りまて舜成りあつらうと瞽叟ハ
ざんざんしてころり成りめころりし舜ハ倉のや成りふりせしやり
舜そのころり成りさとりて手ハころりあつらうの笠成りまらるる倉ハのち瞽
叟下より火成りまらるるつて倉成りや舜ころりあつらうの笠成りひくきとて
ありころり瞽叟その死せざる成りて又舜成りて井成りころりむ
ころり舜成りうづめころりあつらうの人そのころり成り

舜ふはたぐて他國（ふがよといふ）舜（いづく）父母ふ去
 といて死して孝成をまじしちりて不孝成を人（いづく）と
 といりの人そのころ成ゆいきてて舜ふ銀錢五百文成ゆいそ
 の明日井成るると成小舜ふの錢成りゆいする土ふまじてある
 父母あきまじりて欲心ふ万事成りまじりてそのひまお
 とありの家の井ふけ穴成りてのまじりて歴山のふをふ耕て
 めり歳ふ三百石の米成あきむそのち父の瞽叟（あまのむすひ）
 とあり母はまじりてをいとおとあり貧困ありて又天火お
 ちつて家成やく舜ふ継母成るるお新成りて飢寒あるてい
 なるしふ舜成るるて食物成りて新成りふお成りて
 その米のふろのなる錢成りてくらむりくのとくまじりて
 とびくるる瞽叟成りてをいとおとあり子の舜成りて
 と手成はまおひりて市ふのでつお舜成りてるのちひ父子
 あひいりて悲哭哀傷ちまじりて市の人まじりて悲歎
 せむといふことあり舜手成りて父の目成りて天ふひひてり
 るむふちまじりて両目ひひけちの耳まじりて音成りて弟のおし

刑渠ハ老母
 成養て
 食成嚙む齡
 若成

董永ハ一身
 成賣て
 孝養の御器
 小備

よくそのいふやうあるよりこの孝順四海ふきこの堯帝その聰
 明成りて天子の位成ゆりてまじりて舜その位お在りて八十二載也

刑渠養老母。嚙食於成善

樂史が孝悌録ふ刑渠ハ會稽郡の人なり幼少ありて父成りしる
 ひひとり母成りありていつて孝行ありけし母お食成りて
 まつるとおまじりてつらつらつてのちお母をよまひひては
 夜成補ぎて看病せり冬ハ床成あつて夏ハ西成ゆい朝夕
 ちおはてておちりひ成りてまじりてこのまじりて食物成りて
 由ふ年七十なりたる母あるまじりてひふ三十八のやふまじりてあり

董永賣一身。侍孝妻の御器

孝子傳ふ董永ハ漢人なり家まじりて人ふやといひて耕作
 成りて毎日ひとり父成車ふのせひきりきつて農行成り
 とむりて父死しりしがその身成主人ふりて錢十貫成りり
 そまじりて父成葬禮してつらと成りてひりり婦人ふ

楊威獨の母

虎の前かみ啼なげ

免めん害がい

顔がん鳥う墓ぼの土つち

何なにそのかぢりつくり〜董永とうえいがはまをあん〜
もとむ董永主人とうえいしゅじんのころおとをりふ主人しゅじんかぢりのきぬ三百匹さんひやくしち
ありなば夫妻ふうさいともおゆるさんとつりそのつは一月いちげつのあつふ三百
匹しちひやくしちのころおとをり主人しゅじんそのまやき紙しや〜して二人ふたりともおゆるせり
あつふおはま夫おつふおかぢりていさく日ひまはこま天てんの織女おひめなり天帝てんてい
きこが孝行こうぎやうある紙しをもちて錢ぜに紙しはぐの〜むといひて天てんの
なまり列仙れつせん傳でん紙しをもち董永とうえいが子こ紙しのせり董仲とうちゆうと天てん乃
織女おひめのうむとつりとつり

楊威念獨母。虎前啼免害

李り龍りゆう譽よが忠孝ちゆうこう園えん賢けんお楊威やうゑいと〜と記きお山さんお入いて獵りつ紙し
せりひとらの虎こき〜りてやうい紙しくらんとそ揚威やうゑいなをい〜
く〜おひとらの老母らうぼありいまるんぢおくりまを〜
といひりまは〜とつり

顔鳥墓負土。鳥鳥來運埋

廣興記くわうきんぎの十金じゆしきん花はな府ふの人物じんぶつ類るいお漢かんの顔がん鳥うハ鳥傷うしやうといふところの
人ひとなり父死ちちしして土つち紙しあつて墓ぼ紙しはくお鳥うむ〜とつり土つち紙しふ
く〜とそお墓ぼおそ〜おその〜とつり

墓類ぼるい紙しあつて〜とつり顔鳥がんうが墓ぼ紙しのせりその注ちゆ紙しをもち
義鳥ぎう縣けんといふところのひが〜四里しり紙しまきて石碑せきひありといふ詩し
学がく大成たいせいの異苑いえん部ぶお東陽とうやうの顔鳥がんうといひま〜鳥傷うしやうといひ〜
とつり紙し王わう莽まうが〜とつり鳥孝うしやうこうといひ〜とつり顔鳥がんうが孝行こうぎやうの志しを
とつり

許孜自作墓。松柏植作墓

氏族しじやく排韻はいいんお晋しんの許孜きしあつて〜とつり季義きぎといひ東陽とうやうの人ひとあり
二親ふたご死ししてのちお身みを〜とつり紙しをもちて〜とつりひが〜とつり土つち
紙し負おひて墳ふん紙しはく〜とつり鹿かありてその〜とつり松柏しょうはくの木き紙し損そんぎん
許孜きしあつて〜とつり明日あしたその鹿か〜とつりおの〜とつり
死しお〜とつり廣興くわうきん記きおあつて〜とつり孝行こうぎやう紙し感かんしてその里り紙し
孝順こうじゆん里りといひなり大明たいめい一統いつとう志し南畿なんき志しなとのなりおをよ〜

此等の人者
皆父母小孝養
致致
佛神憐愍

こと哉のせり又排韻小晋の元康年中小孝行が世におくま
なりしゆ小天子より旌哉くまきててそは哉門ふそことあり
まろこ一ふ小孝行のそのゆきバ天子より旌哉くはりて門前ふ
ありてをくならり○按むる小許致とつは哉世間流布の本
小許致とかくはりやまより童子教の本文の、哉見て松柏植て
墓と作とよまるとして松柏がひとり生じるとやふこころるハ
り、松柏哉植て墓と作とよむとつは註解哉しとせし
て訓讀もゆふ世本ふふのこひのあやまり多し訂まへ
まろ松柏とまろこの木哉ゆあり孟蘭盆經の新記小松
柏はまろち墳墓ふらゆるところの樹なりとつは

此等人者皆父母致孝者
佛神垂憐愍所願悉成就

此等の人とハ上の郭巨より以下許致までの十人哉ゆなりこの
人ハいゝる孝行の心ありて父母小孝行せしゆふこのころが

垂て
所願悉成就

諸佛菩薩天神地祇を感應してこまありとてこまこま
ゆふ心小福がよとこま成就満足せりとあり○書經酒誥ふ曰
厥父母小孝養せよ尔雅云父母小善を孝と為祭法曰孝者畜
也説者謂親小事の道常小畜て心お在と云云

生死命无常。早可欣涅槃。

生死の命ハ
無常なり
早涅槃を欣

おまより已下ハ佛説ふよりて人間の無常哉志をハ三界乃
分段生死をうけてつふ死一かこ小生じてきまぬ哉無
常とつありつるゆふおまやくむのいん哉おつて佛果乃涅槃
槃を福ととなり涅槃とハちづらなることありあつるあり盆經の
記ふハ寂滅と翻まといり生滅めつ、おまは寂滅をこの
ことまらなることやく生死のふら哉さとして涅槃哉よりこ
となり遺教經の節要ハ圓寂と義翻まるとゆきだ涅槃
とハまどくおけおまらくあつらなることあり哉いふなり

煩惱の身ハ

煩惱身不淨。速の求菩提

致 露命の消不程

重 鴛鴦之衾 身體の懷不

契とハやくそくするの義なり夫婦のちぎらばむよとあつるのあがいきふりやくんと千歳万歳とことづくばいふなり養性要集小亀鶴のち百千のかまじりたり瑞應圖ふりぬ八三千歳とあり本草綱目鶴の條下小相鶴経ばひきていそく鶴を陽の鳥なり百六十年ありて雌雄あひしてさむ千六百年ありてうちをめでさるのんで食せばをち胎化なり又命球ふそく亀鶴よく脈はめぐまわさゆふのちちりして死するところ一氣るふあいてまことさうり次の句の露命とハ人のいのちのそりあきばは西のそりきふとていひなり漢文ハ薤上の露あどいひ和文ハ薤花のつゆのきぬるまらどけり漢書蘇武傳ハ人生ハ朝露の如と亀鶴百千万のいのちにあやくらんとちぎらそこの身の露の命の消えてあるあつばらそこの

重鴛鴦之衾 身體不壞 間

間

切利摩尼の 遷化の無常 歎

崔豹古今注引て云鴛鴦雄雌相離む人其一成りまハ相思て死むま成匹鳥といふと西京雜記小趙飛燕皇后となまそその女弟鴛鴦のふま成飛燕ふあくることあり又天寶遺事小玄宗楊貴妃の契成稱して被底鴛鴦といふなりくのごとくあどりのふま成り存てふくぬのちぎら成りあしみのしこの身のやぶさくもあぬあつてまのののぞとあり老杜が詩あを合歡尚時あり鴛鴦獨宿むといふり文選の古詩ふも文綵鮮る鴛鴦あり裁て合歡の被とまといふり

切利摩尼歎遷化無常

切利とハ三十三天のことなり從義法師の補注ハ三十三天の名成らぐくのせまを去るまはるる小畧を慧琳の涅槃經の音義ハ切利天ハ須弥山のつぎのうへあり四方あのかく八天王あり帝釈ありあまより三十三成合まるとあり又一義ハ云摩尼とハ如意珠といふ玉のことなり因陀羅網とて玉の網成りけりそのひくくやきりける玉の宮殿あまバ摩尼殿といふる也

大梵高臺の
閣お毛
火血刀の苦
成悲

源信大師の觀心畧要集お陀羅網の互お相影現まるとしとあるはこまきあり又雜お寶藏經お命終て三十三天の摩尼炎宮殿中お生おむおと成得此宮殿お乘して善法堂お至と文あり遷化の無常おと往生要集おの切利天のごときハ快樂おきおまおりなりとつとを臨命終の時五衰おの現おむおハ頭上お乃花おのおらおちおまおちお志お不おむおニツおハ天衣塵垢おみおけおがおるおニツおハおこおのおこおよりおあおせおつお四おハお兩お目お志おづおまおろおぐお五おツおハお本居お成おのおまおんおとおり

大梵高臺閣悲火血刀苦

大梵おとハ梵輔お天おのおらおふお高樓閣おあり大梵天おと名づくおと俱舎おのお疏おみおこおりお火血刀おとハ三途お成おりお四解脱經おハ地獄お成お火途道おと名づくお餓鬼お成お刀途道おと名づくお畜生お成お血途道おと名づくお三途おとおりお三毒お對おまお火途おハ嗔お念おありお地獄おなりお刀途おハ慳お貪おなりお餓鬼おなりお血途おハ愚癡おなりお畜生おなりお三藏法數おありお又孟蘭盆經おの會古通お今記おハ地獄おハ日夜おをおゆおふお火おとおハ餓鬼おハ草お成おありおてお刀おとおありおしおこおりお火おとおハ畜生おハお肉お成おくおハ血お成おるおゆおハ血おとお成お

須達之十德
無常於留と
無

須達之十徳

須達おとハ長者おの名おありお名義集おの長者篇お須達多お婆須お達多おとおりお十徳おハ天台大師お文句おハ長者おハ十徳おありおとおりお一おハ姓貴おとおりお二おハ高位おとおりお三おハ大富おとおりお四おハ威猛おとおりお五おハ智深おとおりお六おハ年耆おとおりお七おハ行淨おとおりお八おハ上歎おとおりお九おハ禮備おとおりお十おハ徳成おとおりお人お小おきおやおせおまおるお須達長者おもお右おのおとおりお十徳お成おるおてお人お小おきおやおせおまおるお須達長者おもお無常おのおはおくおハ成おるおとおりおとおりお死おせおりおとおり

阿育之七寶

龍帝の龍杖
投力杖
獄卒の杖
打被

人尤施行
布施ハ菩提
人の糧
最財杖
財寶ハ菩提

若人貧窮の
身ハ菩提
無んハ杖
他の杖
隨喜の杖
生可杖

龍帝投杖力。獄卒杖被打

龍帝がことしはまびららるるむ本文のうへてハ水府のゆきあふし
そのカよく龍杖るばらんとつとども死してハ獄卒の杖ふらとら
獄卒ハ地獄の卒なり觀佛三昧經ハ阿鼻地獄ハ十八獄卒あり
只夜刃のごとく六十四の眼あり鉄丸杖ちちを牙ハ狗の牙のおとく
牙の端より火あぐるハの頭六十四の角あり角の端ハ火をぬその火
化して刀輪となり阿鼻城ハ滿とあり

人尤可施行。布施善提。糧
人最不惜財。財寶善提障

布施ハ人ハその杖施まなり布施ハ三ツの一なり食施財施法
施あり食施ハ人ハ食物杖なりていのち杖をくるるる財施ハ
財寶杖ハくるるる法施ハ説法して衆生杖をくるるるはふさふ
未曾有経ハくるるこの布施ハ菩提ハくるるるとなるなる六波

の障

羅蜜の第一檀波羅蜜ハ布施の行なり糧ハ糧の字とあり説
文ハ穀食ありとあり財寶ハ菩提の障ハ心ハさる杖ありて
執着するところハありハ佛道のさりとあるなりそは杖人ハ布
施ハ是慳貪杖破の前陣正道ハ入の初門菩薩能くは杖行者
ハ則十種の利益杖獲とあり布施ハ福德の資糧と宝積經ハくる
若人貧窮。可布施。財
見他布施時。の生隨喜心
この四ハ諸經要集ありのてくの文ありて人ハまづしてこら
ハ布施ハくるるハありて施ハくるるも他の人の布施ハくるる
してこそハありて心ハありては杖の功德布施ハくるる人ハあり
隨喜ハ杖ハありてハありて法華經ハ隨喜功德品とあり人
のわけきる杖ハくるる杖ハくるる杖ハくるる佛在世の貧女隨喜の杖ハ
して佛ハ一灯杖ハくるる杖ハくるる杖ハくるる須弥灯光如来の記別杖授あり

小勝こり

くろまの輪のめぐるはて人成るもびき世成あさめる由つ小輪
王こりなり名義集ふこ由偈とりハ梵語なりあるハ偈他
こもつ小こまハ伽陀といふべき音成あやまざるなりをこ
あてハ頌といふありまろくの經五字七字成句より以上づき
こ成一偈とまざるありその一偈おまろぬ半偈の法成聞ても
その功德三千世界の宝よりを勝るぞとあり三千界とハ三千
大千世界なりひとりの日月四天下成めぐりて光明のてをこ
ろこ成一世界とまわくのてく千世界のなるふ千の日月千
の須弥山王四千の天下四千の大海四千の惡道千の間羅千乃
四天下千の忉利天千の梵天ふつるこ成小千世界とまそ
こむくの小千界こ成中千世界とまそこむくの中千世界こ
ま成三千大千世界といふ事ハ阿含經ふこ

上ハ須佛道
成求頌
中ハ四恩成

上須求佛乃中可報四恩
下徧及六道共の成仏乃

報む可
下ハ徧六道
及
共ハ佛道成
成可

上ハ成佛の成成ころふもめ生死成いつること成一大事とい
づこま上求菩提あり中ハ四恩成報むといハひとろふハ父
母の恩ふつろハ衆生の恩つろハ國主の恩よろハ三宝乃
恩ありつろハ大乗本生心地觀經おとけり下ハ成福く
慈悲成およせとハ下化衆生のころなり六道のことハまろ
あるせりとまハ佛道成成とハ法界衆生といろくも
ハ佛道成をむるこ成大乘心の至極なり法華經お皆共成
佛道といハこ成廣弘明集お三者ハ沙門の大孝ありとい

幼童成誘引
せんが為ハ
因果の道理
成註

為誘引幼童注因果道理

楞伽經お授童蒙とい注解ハ童蒙ハ初機成いなりといりま
幼まのふろく童子ら成善道ハ誘引んがめハ因果の道理成
して教とまとなり因ハ種なり果ハ實あり善因成まけハ善果實成
惡因成まけハ惡果成むまろ此書ハ因果の二字成大事と成
なり○愚按むるハと登山の兒童ハ庭訓の書るまハその教儒佛ハ涉
志ろくを西学の妙理我儒ハ勝まるとせハまろ卷の始ハ夫貴人の前

内典外典よ
り出たり
見者誹謗
る勿
聞者笑生

小居てハとかきいせむハ禮ハ興なり中ごろハ專勤学の事成りて
君臣父子兄弟朋友の道成りて世教ハ補ひることまじく未ハ合
以因果の道理成注といハ成りて篇終つて作者の本意成
りハせりよしころ成りて時ハ成佛のころとある

出内典外典見者勿誹謗 聞者不生笑

内典ハ佛書のことなり外典ハ儒書成りて心成治成内教といハ身
成治成外教といハ發徴録成りて誹謗ハ人其惡成道多玉篇
みでころりころハ此書ハ儒佛の二道より成りて成りて見
てあざらるるまきころりころりころりころりころりころりころり
○一説
曰童子教ハ五大院安然和尚の作とるなり志らまごもろの師のつくる
教時問答菩提心義即身成佛義私記をいころりころりころりハ文義
さころりころり○愚按むるハ此書ハ童子の聞易くころりころり
かころりころりハ文章の沙汰をころりころりころりころりころり
ころりころりころり

一とあるハ成知さバ聖言成りてそのあころりも安然上
人の罪人なりころりころりころりころりころりころりころり

元亨釈書卷四釈の安然ハ傳教大師の系族なり母ゆめむく
明皇をころり入とよつてころりころりころりころりころり
人ふまきころりころりころり睿山ふのり衣成慈覺の室ふハはころり
顯密乃奧秘餘蘊ふころりころり花山の遍昭ふつてころり胎藏
の法成りてあよそ經論ハ涉獵ハ百家ハ馳騁ハその述作
ころり教時問答菩提心義悉曇章等なり乃至元慶八年
ふころりころり元慶寺傳法阿闍梨ふころりころりころり云

童子教院注終

梧坡教諭

錦城先生附言 堯民著

全二冊

世教勸戒ノ意ヲ述ビテ旁ラ故事古書ヲ引テ証明シタル梧窓遺筆ニ類シテ又別ニ鍵經ヲ開キタル珍書ナリ

朱子家訓經典餘師

齊田先生述

全一冊

此書ハ南宋の名儒朱熹先生平生の訓示ヲ導キ以テ一門ノ家訓トシテ人倫乃道トシテ入常ノ理ト述ラシテ家法備先賢ノ齊たる最ノ善ノ今も字々以テ審小和解シテ是レ士農工商ノ各ノ解ラシキと云フ也凡ソ理と會得シテ一家ト存シバ子孫長久繁茂ト云フ基ナリ

笑戲自知録

伴田陳人著

全二冊

此書ハ在學ノ事トつゞゞいハ申ス凡ソ石の程トシテ家法ノ車ノと云フ也凡ソの事又ハ天下ノの事ト云フ也凡ソの事又ハ天下ノの事ト云フ也凡ソの事又ハ天下ノの事ト云フ也

除蝗錄

大庭永常著

全一冊

此書ハ稻ノ虫ノ附シテ除ク法ヲ述ビテ田畑ノよく実生ハル教ト云フ也凡ソの事又ハ天下ノの事ト云フ也

野総茗話

常盤潭北著

全五冊

此書ハ茶ノ名ノ外本堂ノ法ヲ述ビテ茶ノ味ト云フ也凡ソの事又ハ天下ノの事ト云フ也

秘傳重寶記

西面折

此書ハ病ノ大毒出ノ外本堂ノ法ヲ述ビテ病ノ治法ト云フ也凡ソの事又ハ天下ノの事ト云フ也

三都

書肆

京都寺町通松原下町

勝 村治右衛門

大坂心齋橋通北久太郎町

河内屋喜兵衛

江戸日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

同浅草茅町二丁目

須原屋伊八

同日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同所

山城屋佐兵衛

同芝 神明前

岡田屋嘉七

同本石町十軒店

英 大 助

同浅草廣徳寺前

和泉屋庄治郎

同横山町三丁目

和泉屋金右衛門

百之凝大空藏書